

足利高校同窓会報

題字／漆原常石

会長、校長挨拶 (P.1) 同窓会会員からのメッセージ・同窓会賞を受賞して (P.5-6) 主な部活動の実績 (P.11)
 新校舎落成記念式典 (P.2-3) 同窓会定期総会・大学合格状況 (P.7-8) 事務局からの連絡 (P.12)
 足利高校ラストホームカミングデー (P.4) 学校行事 & 学校生活 (P.9-10)

変化

同窓会会長 早川慶治郎



昨年十月、栃木県立足利高等学校の新校舎落成記念式典が挙行され、学業に部活に存分に活動できる環境が誕生しました。今年の本校への入学希望者も増えていると聞いています。これからの足高の力強い成長に期待をしていきたいと思えます。

今年には二黒土星中宮・乙巳(じこくどせいちゆうぐう・きのとみ)の年です。一般的に巳(み)年は、蛇は成長するために殻を脱いでいくことから、変化・成長を意味すると言われていいます。一方で二黒は大地・万物を育成する星とされていますが、新しい命を育てるには並大抵の努力では物事は育ちません。大変な苦労を重ね、地道に働き、世の中に貢献する生産の星と

言われています。合わせた意味は、今までの流れを根本から見直し、大変化に対応すべく価値観を含め、その仕組みを改革し、新たに粘り強く着実に立て直していく年、そのために一人ひとりの専門性を磨き、その道で秀でた人材になっていく事、そしてあらゆる難題に挑戦し、乗り越えてゆく、その事が大切な年という事だと思えます。

今年の世界は不確定、不透明、見通しのきかない不安定な世界に突入してしまっているようです。このような時はあらゆる事柄で個人も含め、地力をつける以外に手はないと思えます。世の中は想像できない数の要素で構成されています。それぞれの場で今やるべき事を鍛錬と考え、繰り返し積み重ねていく事で理解ができ、その本質が見えてくる、それが地力をつける事に繋がると思えます。



別れ、

そして新校舎へ

校長 武藤 敬一



会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校教育活動に対して、様々なご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

令和六年九月三十日、本校の校舎とお別れをして、有楽町に完成した新校舎での生活が始まりました。三階まで吹き抜けのソフィアコート、大階段やショッピングモールのような造りに感動しながら、生徒たちは新たな歩みを始めました。翌日には、多くの来賓を招いての新校舎落成記念式典や地域住民・同窓生等を招いての新校舎見学会を行うことができました。多くの同窓生にお越しいただき感謝申し上げます。遅れてい

たグラウンドもほぼ完成し、地域の皆様に見守られながら伝統を重ねていくことに喜びを感じております。

十月二十七日には、旧校舎お別れ会(ラストホームカミングデー)を開催することができました。運営をしていただいた同窓会役員の方々と、来校された多くの同窓生の皆様には、学生時代を懐かしく思い出していただけたことと思います。

また今年度は、多くの同窓生より、生徒活動支援のための貴重なご寄付をいただき感謝申し上げます。今後、新校舎における本校教育活動の中で、同窓会やPTAと相談しながら活用させていただきます。

結びに、これからも母校に対する変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますと同時に、足高同窓会のみならずの発展と会員の皆様のご多幸をご祈念申し上げて挨拶とさせていただきます。

新校舎落成記念式典



令和六年十月一日(火)
新校舎落成記念式典が、本校アリーナで挙行されました。

式典では、武藤校長の式辞、栃木県教育委員会教育長阿久澤真理様の挨拶のち、栃木県知事福田富一様、栃木県議会議員代表木村好文様、足利市長早川尚秀様から祝辞を賜りました。さらに、多くの方々から祝電をいただきました。式典後は、来賓の皆様在校舎内を見学していただきました。
ご列席いただきました皆様、関係各社様のお陰をもちまして挙行することができました。誠にありがとうございました。

午前中の記念式典に続いて、午後は新校舎が一般に公開され、卒業生や市民の方など約一二〇〇名が訪れました。当日は、PTAによる校章焼印入りどら焼きと足利高校タオルの販売もあり、珍しさに大人気でした。

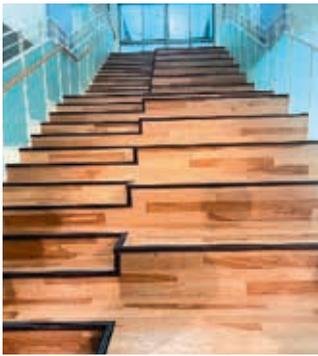


新しい校舎は、昇降口の天井に木材を使用しており、温かみのある空間になっています。昇降口の横には自修室(自習室)があり、パーテーションで仕切られた机が七十二席あり、生徒たちの勉強をサポートしています。自修室からは階段で二階の図書室に行けるようになっているので、勉強しながら調べものをするのに最

適な動線となっています。この校舎のメインは、なんといつても校舎の真ん中が吹き抜けになっていることです。三階建ての大きな校舎は南側に普通教室が、北側に特別教室が配置されており、真ん中部分「ソフィアコート」は天井まで吹き抜けていて明るく開放的な空間となっています。



さらに、吹き抜けに面した「大階段」は幅が広く、通常の高さの階段と二段分の高さの階段の二種類が並んでいて、高い段では生徒達が座って友達と話したりお弁当を食べたりしているそうです。大階段と吹き抜けスペースはちよつとしたホールのように使用可能と

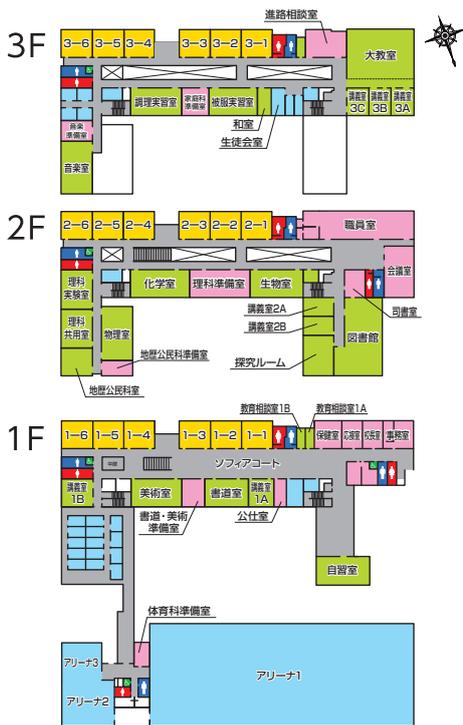


のことです。

全ての教室には電子黒板とプロジェクトターが整備されていて、教材等を映し出して授業ができます。そして、南側の教室には旧足女にはなかったバルコニーが付いています。一学年全員が一堂に会することができ、広さで大きなスクリーン



のある、大教室もあります。校舎の外には、旧足利高校と旧足利女子高校の歌碑と懐かしの銅像などが芝生の中に並んでいます。その他、それぞれの学校にあった絵画や美術品も、新校舎に大切に飾られています。





▲大教室
一学年分の生徒240名が入れます。



◀▲体育館
バスケットコート4面分の広さがあるので、全校生徒が入ってもこの余裕です。



▲自修室
冷暖房完備。
奥に見えるのは
図書館直結の階段です。



▲化学室
大学の実験講義室みたいです。
新校舎は理科関係の特別教室が
充実しています。



▶普通室
旧校舎より小さめですが、
明るくて木の温もりが感じ
られます。



▲トイレ とてもきれいで明るいです。



▲図書館 一般書籍のほか、赤本などもあります。

足利高校ラストホームカミングデー

(旧校舎見学会)



んだ校舎は閑散として、一
抹とは言えない寂しさを催
す見学会になるだろうこと
が想像されました。

十月末時点で、有楽町の
新校地では校庭の整備が間
に合わず、野球部やサッカー
部は旧校地の校庭で活動し
ていました(現在(十二月)
も状況は同じです)。見学会
当日も、空っぽになった旧
校舎の前で朝から野球部が
館林の関東学園大学附属高
校との練習試合を行って
いました。

校舎移転がほぼ完了し、
生徒たちの新校舎での生
活が始まって間もなく一
カ月になるうかという十月
二十七日(日)、同窓会主催
で「足利高校ラストホーム
カミングデー(旧校舎見学
会)」が催されました。当初
は移転前の九月一日(日)
に予定されていましたが、
台風10号の接近で荒天が予
想されたため、延期になり
ました。九月であればまだ
生徒が旧校舎で生活してい
たので、見学に訪れた方々
も自分の高校時代を重ね合
わせて懐かしめるだろうと
の読みもありましたが、す
でに移転作業のあらかた済

開場は十時ということ
でしたが、それよりも早く見
学者はちらほら訪れ始めま
した。市内や隣接地域から
はもちろん、首都圏や遠く
は京都からいらしたという
方もありました。何人かが
相乗りで来られるグループ
もあれば、一人一人に来て
現地集合するという方々も
ありました。家族連れ、子
ども連れで見える方、本
当に一人で来て思わぬ再会
に歓声を上げる方、様々で
した。男子校・足高で学んだ
男性OBはもちろん、中
には高校生の頃にはこの校舎
に入ったことはなかっただ
ろうと思われる女性OG、

つまり旧足女卒業生の姿も
ありました。高校生の頃には
入れなかったからこそ、
という思いでいらしたので
でしょうか。受付をしている
と意外の感と共に妙にあり
がたくも感じました。



いらした方々には、ある
程度の人数がまとまったと
ころで班になっていただ
き、足高OBで現職の先生
方(加えて校長先生や事務
長まで出勤!)の案内で校
舎内を見学して回っていた
だきました。教室に机が並
び、ロッカーの上に生徒の
荷物があったりすれば、「俺
の頃もこんなだったなあ」
などと懐かしい想像もでき
たというのですが、も
はや教室はもぬけの殻。これ
では寂しさが募るばかりで
……と思いきや、見学にい



らした方々は、何も無い教
室を見て「俺の席はこの辺
りだったよ」「ここから〇〇
がよく見えたもんだった」、
あるいは「我々の頃には裏
に木造のポロイ校舎があっ
てさあ……」などと、もの
の無さなど無関係に当時は
振り返り、思い出話に花を
咲かせていました。案内す
る先生のかつての教え子だ
という方も何人もいて、「あ
のときは……でした」など
という話でも盛り上がり、
思い出はものにはばかり宿
めではないということが改
めて感じられました。音楽
部OBだという一団が講堂
(第一体育館)で校歌を演
奏した際には居合わせた他
の見学者も一緒に歌って歌
いました。限られた時間では



ありましたが、来てくださ
った方々にはまたとない有意
義な時間を過ごしていただ
けたようです。
午後一時、見学者の退場
を確認して校舎を施錠しま
した。約二五〇名の来場を
得て、「足利高校ラストホー
ムカミングデー」は盛況の
うちに幕を下ろしました。
青春時代のひとときを過ご
した校舎との別れを惜しむ
と同時に、青春時代を共有
する仲間との旧交を温め、
明日の活力を得るような機
会になったことと思いま
す。そして、ここで紡がれ
てきた足高の絆が、今後有
楽町の地でさらにつながれ
広がっていきますように。
そんな願いを新たにしたら、
「足利高校ラストホームカ
ミングデー」でした。

同窓会会員からの メッセージ

だから人生は

面白い

大日本蚕糸会 会頭

松島 浩道



私は昭和五十七年に農林水産省に入省しました。

当時のベストセラーに「ローマクラブの「成長の限界」があります、その主張の一つは、人口は幾何級数的に増加するが農業生産の増産はそれに追いつかないので、将来、世界は食糧危機に直面するというものでした。

農水省を就職先に選んだ最大の理由は、食料の過半を輸入に依存している日本の食料政策に携わってみたいということでした。

に直面していると言われてはいますが、これは食料が先進国に偏在しているためで、今のところ世界全体で食料の需要量に対して供給量が不足している事態にはなっていません。遺伝子組換え技術を活用した品種改良など科学技術の発展により面積当たりの収量が増えたり、耕作可能地が拡大したため、農業の生産力が予想を超えて向上しました。

振り返ってみると、私の農水省での仕事の中心は、食料不足問題ではなく国内の農産物の過剰問題への対応や、いかに国際市場から農産物が無秩序に国内市場に流入することを防いで国内の農業生産を守るかということでした。

また、霞が関の中で農水省はドメスティックな経済官庁と言われていて、入省した時には、自分が海外で勤務することなど全く予想していませんでしたが、いろいろな巡り合わせで公務員人生四〇年のうち十年間をイギリス、スイス、スロベニアで勤務することにな

りました。当初想定したものと異なることばかりでしたが、結果的には充実した仕事が出来たと思っています。人生は思ったようにならないからこそ面白いのかもしれない。

足利から世界へ、

そして未来創生へ

R production Inc. 代表
高度外国人財定着支援コンサルタント

菊池 領子



現在私は「外国人との共生で未来をひらく」というビジョンを掲げ、外国「人材」が活躍できる企業の組織文化づくりをサポートしています。

そんな私の高校時代の思い出といえば、何と云っても二年間の生徒会活動です。特に二年目は生徒会長として、学校祭と体育祭の周期の変更を始め、さまざまな改革を推進しました。周囲を巻き込みながら企画を進める経験は、大きな喜びを感じるものでした。

足利で培ったこうしたリーダーシップや改革精神が、その後、ゼネコンでの文系女性総合職第一号入社へとつながり、7年間、都市開発プロジェクトを担当しました。当時、いつか生まれ故郷の足利の仕事をしたかったものです。

退社後は中国への留学を決断。夏休みにはシルクロード陸路の旅に仲間や夫と挑戦しました。その経験は、後に手掛けた中国舞台芸術交流プロジェクトと共に、今の仕事の土台となりました。

それは、異文化理解と異文化コミュニケーションであり、互いを尊重し合いながら、個性を活かして活躍できる環境を整えるダイバーシティ&インクルージョンの考え方です。今ではこうした環境がイノベーションに不可欠と理解されるようになりました。経営者や現場管理職の方へも研修でお伝えしています。

この春、足利高校の先輩のご縁で足利未来創生会議の委員に就任いたしました。これまでの経験、ネットワークを活かし、外国「人材」定着支援、女性活躍支援を主に、足利の発展に寄与してまいりたいと思います。

スズメバチハンター

声楽家・中学高校音楽科
非常勤講師

関 奈美



旧足女の校舎には「網戸」というものはなかったのですが、さわやかな風の通り道であると同時に、多くの虫たちの通り道でもありました。そしてある日、さわやかな秋風に乗ってやってきたのはスズメバチ。殺虫剤もなく、これは戦うしかない（現役の生徒のみならず、安全に避難してくださいね）窓辺に追い込み、上履きで戦った記憶がありま



※写真はイメージです

す。その後スズメバチハンターではなく、東京学芸大学を経て東京藝術大学に進学し音楽の道へ進みました。が、音楽の道に進むよう背中を押して下さったのが、当時足女で音楽を教えて下さっていた中島先生でした。先生に出会っていなかったら、音楽を仕事にするな、考えもしなかったと思います。現在、中学と高校で音楽の非常勤講師を務めながら、オペラや音楽の舞台などで歌う仕事をしており、秋風が吹く季節になると先生のこと、一緒に歌ってくれた部活の仲間たちのことを思い出します。

足高生活

大美賀 均



高校生活で思い出すものは、足高の近くの市営コート。放課後はそこでほぼ毎日テニスをしていました。強くもなく弱くもない、自主性を重んじるテニス部はとても居心地が良いものでした。暗くなったら近くのコンビニへ行き、駐車場で

紙パック飲料を飲みながら駄弁るまでが部活でした。自宅から足高は片道10キロあり、よく毎日自転車です。通っていたなと思います。部活を引退してからはカブで馬打峠を越えるルートで通っていました。工業や商業などの他校の生徒を眺められる街ルートの方が楽しかった覚えがあります。こうして思い返してみると当時の自分の世界はほぼ足高までの通学路上にしかありません。少し後悔しております。(これを読んでいる皆さまの足利の好きな場所、飲み屋など、お聞きできたら良いのですが!) 優秀な同級生だけではなく自分のような平凡な生徒も許容してくれた足高は懐の深い校風なのだと思っています。

東京の専門学校を出た後はいろんなアルバイトを転々としていましたが、今は映画製作の仕事に漂着しています。ご縁にも恵まれ、今のところ続いております。最近欲が出てきて自作の上映までしてしまいました。できれば今後も地道に制作していきたいと思っています。もし皆さまの目に触れることがありましたら、興味を持って頂けると大変嬉しいです。

令和五年度同窓会賞を受賞して

大野 佐紀



この度は足高同窓会賞という名誉ある賞をいただいたことを、大変光栄に思います。足利高校の多くの優秀な生徒の中から選ばれたことを胸に刻み、賞に恥じないよう注力してまいります。

足利高校での三年間を振り返ると、非常に充実した日々を過ごし、その中で自分自身を大きく成長させることができました。私は高校三年間の中で特に学業に励み、その結果第一志望だった東京大学に合格することができました。勉強する過程で、自分で目標を立てて逆算し、必要な技能を見極め、その習得に向けて進むことの重要性に気付くことができました。しかし、周りの方々による手厚いサポートがなければ、私がこのように勉学に集中することは決してできません。

日野 凌空



最後になりますが、足利高校及び足利高校同窓会の更なるご発展を心より願っております。

この度は、足高同窓会賞という大変素晴らしい賞に選出していただき、大変光栄に思います。在学時に支えてくださった先生方、私たちのサポートをしてくださった同窓会の皆様には、心から感謝していることをこの場をお借りして申し上げます。

在学時を振り返ると、私は学友と共に切磋琢磨して、自身の学力を積

極的に向上させつつ、学友のサポートも怠らぬに施すことで、足高での三年間を自分自身の進歩に費やせたと感じます。特に、私は文武両道の教訓をもとに、学問と部活の両立に励みました。私がこれを成し遂げることができたのは、足高の教育体制や活動方針など、環境が十分に整えられているからであると思います。

足利高校は、近年の間で共学化や新校舎開設など、いくつもの転換点を通り、新たな歴史を築こうとしています。新たな環境に置かれ、困惑することも多々あると思います。ですが、在学生の皆様は、数多くある行事を楽しみ、この新たな環境のもとで学問に励むとともに、新たな足高の歴史を生み出していただきたいと思います。

私は足高での生活の中で、楽しいことや辛いことを幾度も経験しましたが、卒業した今となってはすべて貴重な宝物です。この足高で培った経験をもとにし、これからの生活に生かしていきたいと思っております。

最後にはなりますが、新たな転換点を巡る新足利高校、そして足利高校同窓会のこれからのさらなるご発展を心より祈念申し上げます。

同窓会定期総会

令和六年七月十三日(土)
午前十一時よりニューミヤコ
ホテル芙蓉の間において令和
六年度の同窓会定期総会が開
催されました。

総会は松島副会長の開会の
言葉で始まり、昨年度逝去さ
れた会員の皆様への黙祷、同
窓会長挨拶と学校長挨拶があ
りました。議事は①令和5年
度事業報告・決算報告・会計

監査報告②令和6年度事業計
画・予算案審議③役員改選で
した。それぞれについて質疑
応答があり、賛成多数で承認
されました。すべての議事が
終了し、閉会となりました。

その後懇親会が鳳凰の間に
移動して行われました。今年
は足利高校合唱部が「深い
河」・「ふるさと」など三曲を
披露しました。最後は足女・
足高の校歌を歌ってお開きに
なりました。



館林邑楽地区 足高同窓会開催

1. 概要

令和六年七月二十日(土)、
コロナ禍を経て数年ぶりに館
林邑楽地区足高同窓会が開催
されました。開催地は館林市
内の飲食店で、出席者数は
二〇名強と少人数ながらも盛
大な会となりました。

2. 出席者

・学校関係者
武藤校長先生
茂木先生、南保先生
・同窓会

3. 開会式及び現況報告

同窓会は、武藤校長先生に
よる現況報告でスタートしま
した。
・学校の現況

新築校舎は最先端の設備を
備え、生徒が学校生活を有意
義に過ごせるような工夫を随
所に施しています。

現在、栃木県立足利高等学
校は男女共学となり、教育方
針として進取・忠恕・自学を
掲げ、文武両道を推奨してい
ます。

栃木県下で有数の倍率を誇
り、受験生である中学生から
選ばれる学校になりつつあり
ます。

スローガンに「凡事徹底」
を掲げ、生徒が何事にも取り
組む際の合言葉になっていま

す。

学業面では、成績優秀者の
輩出や受験の成功、部活動に
おいても数々の成果が報告さ
れました。特に、校外の大会
やコンペティションでの活躍
が目立ちます。

4. 会員の近況報告

同窓生からは、以下のよう
な近況報告がありました。

・館林城再建に向けた運動
現在進行中の館林城再建プ
ロジェクトについての情報共
有が行われ、今後の活動計画
が説明されました。

・個別の近況報告

各自の職業やプライベート
の近況についても語り合い、
久々にお会いした同窓生との
交流が深まりました。年代や
職業は様々ですが、共通の学
校経験を通じて和やかな雰
気での対話が展開されまし
た。

5. 交流の場

同窓会では、学校の現況報
告だけでなく、参加者同士の
交流の時間も設けられまし
た。お互いの近況や現在の活
動について話し合い、懐かし
い思い出を共有することで、
旧知の仲をさらに深めるこ
とができました。

6. 終了

会の終わりには、次回の同
窓会の開催についての話題も
上がり、参加者からは次回の
再会を楽しみにする声が多く
寄せられました。

第30回首都圏 足高同窓会総会

今年度は令和六年十一月十日(日) 十二時より東京竹橋・如水会館にて開催されました。当日は八十名(足女二十三名、足高五十五名、関係者二名)の同窓生が参加しました。



今回は三〇回記念なので、メゾソプラノの関奈美さん(平六)とピアノの細田秀一



さん(昭五十四)のコンサートが開かれました。故郷を思うというテーマで、歌が六曲、ワルツが二曲演奏されました。アンコールは「ふるさと」。

参加者スピーチでは、石島武一さん(昭二十七)から父親に反対して医学の道に進んだ話。関根幾久子さん(昭三十一)からは疎開で来てからずっと足利にお世話になっているという話などが披露されました。

最後は足女生全員が舞台上がり、関さんのリードで足女校歌、続いて足高生も細田さんのピアノで旧足高校歌を歌い、エールと手締めで終了しました。来年度は十一月八日(土)に開催の予定です。是非ご出席ください。

令和6年3月卒業生 大学合格状況

国公立大学 **119名合格!**

私立大学 **590名合格!**

(現役合格のみ・合格延べ数)

<国立大学>

大学名	人数
北見工業大学	1
秋田大学	1
東北大学	3
宮城教育大学	1
山形大学	3
茨城大学	4
宇都宮大学	15
群馬大学	40
埼玉大学	4
電気通信大学	2
東京大学	1
新潟大学	1
上越教育大学	2
富山大学	1
福井大学	1
信州大学	4

<公立大学>

大学名	人数
宮城大学	1
秋田県立大学	1
会津大学	1
前橋工科大学	8
群馬県健康科学大学	1
群馬県立女子大学	3
高崎経済大学	5
埼玉県立大学	1
東京都立大学	2
川崎市立看護大学	1
横浜市立大学	2
長岡造形大学	1
富山県立大学	1
都留文科大学	3
長野県立大学	2
尾道市立大学	1
福岡県立大学	1

<私立大学>

○ 栃木県

大学名	人数
足利大学	12
国際医療福祉大学	11
自治医科大学	3
獨協医科大学	8
白鷗大学	63
文星芸術大学	1

○ 群馬県

大学名	人数
高崎健康福祉大学	15
高崎商科大学	3
群馬医療福祉大学	2
群馬パース大学	7
桐生大学	3

○ 茨城県

大学名	人数
つくば国際大学	1
流通経済大学	1

○ 千葉県

大学名	人数
淑徳大学	1
城西国際大学	1
聖徳大学	1
千葉工業大学	26
中央学院大学	4
東京情報大学	1
千葉科学大学	1
和洋女子大学	1

○ 埼玉県

大学名	人数
埼玉工業大学	8
城西大学	4
駿河台大学	2
聖学院大学	1
獨協大学	45
日本工業大学	3
文教大学	40
明海大学	1
目白大学	6
日本医療科学大学	1

○ 神奈川県

大学名	人数
神奈川大学	6
関東学院大学	1
湘南工科大学	1
桐蔭横浜大学	1
東京工芸大学	1

○ その他の府県

大学名	人数
東北医科薬科大学	1
東北福祉大学	1
東北芸術工科大学	2
郡山女子大学	1
福井工業大学	1
帝京科学大学	2
中京大学	1
中部大学	1
立命館大学	1
近畿大学	1
福山大学	1

○ 東京都

大学名	人数
青山学院大学	2
桜美林大学	1
大妻女子大学	3
北里大学	2
杏林大学	1
国立音楽大学	1
慶応義塾大学	1
工学院大学	2
国士舘大学	2
駒澤大学	8
実践女子大学	1
芝浦工業大学	10
順天堂大学	4
上智大学	1
昭和女子大学	2
女子栄養大学	2
女子美術大学	4
聖心女子大学	2
専修大学	5
大正大学	2
大東文化大学	22
拓殖大学	11
玉川大学	4
多摩美術大学	4
中央大学	6
津田塾大学	1
帝京大学	14
東海大学	6
東京家政大学	4

大学名	人数
東京家政学院大学	3
東京経済大学	2
東京工科大学	2
東京女子大学	4
東京女子体育大学	1
東京造形大学	3
東京電機大学	26
東京農業大学	6
東京理科大学	1
東邦大学	1
東洋大学	38
二松学舎大学	1
日本大学	25
日本女子大学	2
日本赤十字看護大学	3
日本体育大学	1
法政大学	7
武蔵大学	1
東京都市大学	2
武蔵野大学	2
武蔵野美術大学	2
明治大学	8
明治学院大学	4
明治薬科大学	4
明星大学	4
立教大学	6
早稲田大学	2
デジタルハリウッド大学	1

足利高校



学校行事 & 学校生活

学校行事

○ブロック制・

ブロック対抗戦

足利高校の学校行事の大きな特徴は、旧足高・足女の統合とともに導入された「ブロック制」です。この制度は、学校全体を縦割りでブロックに分け、一年間様々な学校行事を通し、ポイントを競い合うというもので、準備から、行事当日の流れまでの全てを生徒が



去年度まではTシャツのカラーはブロックの色でしたが、今年度から九色に増やし、それぞれの個性をより輝かせることができました！

「Pe Red」と高校生ならではのユニークな名前ばかりでした。クラスTシャツは各クラスでデザインを考え製作します。昨年度までは

今年度のブロック対抗戦（5/29（水））では、トーナメント形式で卓球・バレー・バドミントンなどの運動競技、イントロクイズや今年新たに導入されたジェスチャーゲームといった頭を使う競技が行われました。それぞれ違うブロックのクラスと競技を行い、勝利に応じて得点を手に入れることができ、それがブロック全体の点数に直結します。午後のブロック対抗リレーは高得点を得ることができるといふこともあり、一番の盛り上がりとなりました！さらに、各部署活動による名誉をかけた部活動対抗リレーや、エキシビジョンとして先生対生徒のキックベースやソフトボールの試合があり、普段お目にかかれない先生たちのお「本気」を見ることができました！

今年度のブロック対抗戦（5/29（水））では、トーナメント形式で卓球・バレー・バドミントンなどの運動競技、イントロクイズや今年新たに導入されたジェスチャーゲームといった頭を使う競技が行われました。それぞれ違うブロックのクラスと競技を行い、勝利に応じて得点を手に入れることができ、それがブロック全体の点数に直結します。午後のブロック対抗リレーは高得点を得ることができるといふこともあり、一番の盛り上がりとなりました！さらに、各部署活動による名誉をかけた部活動対抗リレーや、エキシビジョンとして先生対生徒のキックベースやソフトボールの試合があり、普段お目にかかれない先生たちのお「本気」を見ることができました！



今年度のブロック対抗戦（5/29（水））では、トーナメント形式で卓球・バレー・バドミントンなどの運動競技、イントロクイズや今年新たに導入されたジェスチャーゲームといった頭を使う競技が行われました。それぞれ違うブロックのクラスと競技を行い、勝利に応じて得点を手に入れることができ、それがブロック全体の点数に直結します。午後のブロック対抗リレーは高得点を得ることができるといふこともあり、一番の盛り上がりとなりました！さらに、各部署活動による名誉をかけた部活動対抗リレーや、エキシビジョンとして先生対生徒のキックベースやソフトボールの試合があり、普段お目にかかれない先生たちのお「本気」を見ることができました！



○学校祭（クラス発表会）

足利高校の大きなイベントの一つである「学校祭」。今年度は旧校舎で行う最後の学校祭で、学校移転の関係により、「クラス発表会」という形で行われました（8/30（金））。例年と異なり、準備期間が短いことや校内公開のみ、一日のみでの開催など、多くの制限がありました。一方で、今年度は生徒の希望であった食品の提供ができることになり、クラスの出し物の選択肢が大きく広がりました。実際、洋菓子を提供するメイドカフェ、きゅりの一本漬けやラムネを提供する屋台などが、出店され、大き

な盛り上がりを見せていました。これまでにない制限の中であっても、各クラスがクオリティの高い出し物ができたのは「足高力」の賜物です！



○校舎移転

高校の新校舎への移転は、新しい未来への扉を開く瞬間でした。旧校舎は友達との笑い声や、先生方の愛情深い指導、部活動での汗と涙など、多くの思い出が詰まっています。新校舎とのお別れの移動のためにダンボールに詰め込む作業。旧校舎とのお別れの寂しさもありましたが、それ以上に期待に心を膨らませていました。新校舎は吹き抜けの廊下や図書室と繋がっている自修室、一学年全員が集まれる大教室など、私たちの学びをサポートする環境が整っています。また新校舎は新たな夢や目標に向かうためのスタート地点でもあります。旧校舎での経験と胸に新たな日々を過ごし、新たなチャレンジに取り組みでいきたいと思えます。そして、ここでの学びが、私たちの未来に大きな力となることを信じて、勉強に部活に励んでいきたいです。

学校生活

新校舎を利用し始めてから数ヶ月ほど経ちましたが、慣れたという感覚よりもまだまだ新鮮な気持ちでいっぱいです。やはり、最初の頃から感じている通り、校舎がきれいだと思えます。図書館やエレベーター、ウオータースタンドやショッピングモールのようなトイレといったように設備も充実していて、学校生活を送る上で、この上ない環境が整っています。さらに、全面ガラス張り吹き抜けもあることで、旧校舎よりもクラス、学年に限らず生徒同士の距離感が近くなつたように感じます。また、一階のソフイアコートでは、合唱部・管弦楽部、書道部による演奏やパフォーマンスが行われます。

この吹き抜けを活かし各階より鑑賞することができ、全方向より降り注ぐ拍手は圧巻です！
新校舎の体育館は、バスケットコート四面分

のアリーナ1、武道や卓球、ダンスができるアリーナ2・3からなる巨大な体育館です！綺麗で天井が高く、伸び伸びとプレーができます！
これから入学してくる後輩たちのためにも、この新校舎を皆で守り、今後何十年、何百年も足利高校が発展していけるようにしていきます！



主な部活動の実績

ダンス部

○第36回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 入選「藤 一命脈をつなぐ」



男子バドミントン部

○第70回記念関東高等学校バドミントン選手権大会 出場



陸上競技部

○令和6年度 第28回関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会

男子800m 出場 大野 遼太郎
女子円盤投 出場 茂木 花凧



写真部

○第31回関東地区高等学校写真展千葉大会 出品



1年 長坂滋比古
「銀世界のベクトル」



2年 堀口華那
「ヒトのカタチ」

水泳部

○令和6年度 第75回関東高等学校選手権水泳競技大会 兼 第92回日本高等学校選手権水泳競技大会関東地域予選会(7/19(金)~23(火):笠松運動公園水泳プール(茨城県))
・男子500m自由形、男子1000m自由形 関口 颯斗
・男子2000m自由形、男子4000m自由形 稲毛 駿太
・女子1000m背泳ぎ、女子2000m背泳ぎ 新井 友性

○令和6年度 第92回日本高等学校選手権水泳競技大会(8/16(金)~20(火):SAGAアクア(佐賀県))
・男子1000m自由形 関口 颯斗
・女子1000m背泳ぎ 新井 友性
○令和6年度 第78回国民スポーツ大会水泳競技大会(9/14(土)~16(月):SAGAアクア(佐賀県))
・女子2000m背泳ぎ(少年A) 新井 友性



令和5年度 生徒活動支援基金 野球部

現在野球部は、二年生十一名、一年生十名の計二十一名で活動しています。この度、同窓会から野球グラウンドに新しい倉庫を寄贈していただき大変感謝しています。倉庫の老朽化が進んでおり活動に支障が出ていたところでしたが、新倉庫になり気持ちも



新たに、日々の練習に励んでいます。今年度は県高野連交流戦でブロックを勝ち抜き、県のシード校となることができました。また秋季県大会ではベスト16に進出し、さらに上位進出を目指し練習に励んでいます。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

第77回春季栃木県高校野球大会
2回戦 0-2 小山南
第106回全国高校野球選手権栃木大会
1回戦 2-1 那清峰
(延長10回タイブレークサヨナラ)
2回戦 0-3 文芸附

第2回阿部司杯
準決勝 10-2 足利工
決勝 3-2 宇短附
優勝
令和6年栃高野連交流戦
1回戦 8-1 幸福
決定戦 7-0 連合
秋季大会シード権獲得
第77回秋季栃木県高校野球大会
2回戦 4-0 宇短附
3回戦 0-10 文芸附

新校舎への移転作業を終えて 引越作業の最前線から

旧校舎で使用していた物品の多くは新校舎へ運搬し、残った物品は、栃木県財務規則の処分手続きに基づき、まず、県有施設への移管、次に公共用として使用する足利市有施設へ移管し、そして、売払い(リユース、リサイクル)、最終的に残った物品は産業廃棄物として処分しました。

施設、足利市内の小中学校、足利市の施設で活躍していることでしょうか。特に、生徒達が体育館へ運んだ机・椅子及び体育館用の折りたたみ椅子は、旧足女で使われた物も多く、受け取った相手方から非常に喜ばれました。チーム学校として、SDGsの「つくる責任つかう責任」を達成することができた満足しています。



▲行き先が決まっている物品たち



令和5年度同窓会賞

小堀 裕太・石川 凜果
日野 凌空・須藤 英路
飯山 直翔・川島 己稀
桑内 美優・大野 佐紀

佐山 未央 (囲碁将棋部)
関口 颯斗・新井友惟 (水泳部)
板橋 瞳
(第44回全日本リコーダーコンテスト花村賞)
荒川 千馳
(クリケットU19代表)

同窓会からの連絡

現在同窓会事務局では足利高校同窓会独自のHPを作成中です。これにより、同窓会行事のお知らせや、各種行事への参加申し込み、住所変更連絡等に活用していきたいと思っております。また、同窓会報もHP上で皆様にご覧いただけるようにしたいと思っております。可能であれば令和七年四月から利用できるようにしたいと思っておりますので、その際はぜひご覧くださいませようお願い申し上げます。

編集後記

令和四年四月。旧足利高校と旧足利女子高校が統合されてより、二年半の時を経て旧足女高の跡地に新校舎が落成しました。新校舎への移転に際しては教職員の皆様は大変な作業であったことと思います。本当にご苦労様でした。三階建ての設備の整った校舎、広々とした校庭と素晴らしい恵まれた環境の中で、部活、勉学に励み、素晴らしい結果を出されることを大いに期待しております。



この製品のFSC®ラベルは、世界の森林資源の責任ある利用を保証します。



石油系溶剤の一部を植物油に置き換えたインキを使用しています。



印刷用の紙にリサイクルできます。不要となった際は、古紙回収・リサイクルに出してください。



環境基準に適合した印刷資材を使用し、グリーンプリンティング認定工場印刷しています。

発行所：県立足利高等学校 栃木県足利市有楽町837-1
編集発行人：足利高校同窓会 編集委員会
印刷所：足利印刷株式会社